



带状疱疹予防接種について（説明書）

この説明書を必ずお読みいただき、予診票にできるだけ詳しくご記入ください。

1. 带状疱疹とは

水痘・带状疱疹ウイルスによる感染症です。主に子どもの頃に初めて感染すると、水痘（水ぼうそう）を発症します。治った後もこのウイルスは神経節に潜んでいます。普段は体の免疫力によってウイルスの活動が抑えられているため発症しませんが、ストレスや過労、病気、加齢など免疫力が低下した際に、再び活性化し、带状疱疹に痛みや発疹がでる带状疱疹として発症します。

2. 带状疱疹の症状と合併症について

带状疱疹の発症は、50歳以上になると増加し、70歳代でピークとなります。また日本では**80歳までに約3人に1人が発症すると推定**されています。

带状疱疹は、発症すると皮膚の痛みやかゆみ、発疹や水ぶくれといった症状が、神経の流れに沿って带状疱疹に現れます。通常は、発疹や水ぶくれの治癒と同時に痛みも消失しますが、治った後も、50歳以上の約2割の方に、長い間痛みが残る带状疱疹後神経痛（PHN）になる可能性があると言われています。

3. ワクチンの種類

带状疱疹を予防するワクチンは、現在2種類あり、接種回数や接種効果などに違いがあるので、必ず医師にご相談ください。

		生ワクチン (ビケン)	不活化ワクチン (シングリックス)
接種回数 (接種方法)		1回（皮下注射）	2回（筋肉内注射） ※通常、2ヶ月以上の 間隔を置いて2回接種
効果	接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
	接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
	接種後10年時点	—	7割程度の予防効果

※合併症の带状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、不活化ワクチンは9割以上と報告されています。

4. 接種を受けた後の副反応について

よくみられる副反応には、注射部位の発赤、かゆみ、熱感、腫れ、痛み、硬結、倦怠感、発疹などがありますが、多くは1～3日で消失します。

予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、くり返すおう吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたりしたら、接種医師（医療機関）の診療を受けてください。



5. 予防接種を受けることができない方

- (1) 明らかに発熱している方
- (2) 重い急性疾患にかかっている方
- (3) ワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシーショック（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある方
- (4) その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある方

6. 予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなければならない方

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患のある方
- (2) 予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- (3) 過去にけいれんを起こしたことがある方
- (4) 過去に免疫不全の診断がなされている方もしくは近親者に先天性免疫不全の方がいる方
- (5) この予防接種に対してアレルギーを起こす恐れのある方
- (6) 明らかに免疫機能に異常のある疾患がある方及び免疫抑制をきたす治療を受けている方（生ワクチンは接種できません。不活化ワクチンを接種される方は、主治医とよくご相談ください。）
- (7) 3ヶ月以内に輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方、6ヶ月以内に大量ガンマグロブリン療法を受けた方（生ワクチンの効果が得られないおそれがあります。）
- (8) 血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を行っている方（不活化ワクチンを接種される方は、主治医とよくご相談ください。）



7. 予防接種を受けたあとの注意事項

- (1) 接種後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師とすぐ連絡を取れるようにしておきましょう。
- (2) 予防接種を受けた後、高熱やけいれんなどの重い症状があった場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- (3) 接種当日の入浴は差し支えありません。接種部位を強くこすることはやめましょう。
- (4) 接種当日はいつもどおりの生活でかまいませんが、激しい運動は避けてください。

8. 健康被害救済制度について

予防接種によって健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすることはできないことから救済制度が設けられています。制度の利用については、予防接種を受けた時に住民票を登録していた各市町村へご相談ください。

9. 他の予防接種との接種間隔

いずれの带状疱疹ワクチンでも医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時に接種が可能です。ただし、生ワクチンは、他の生ワクチンと27日以上の間隔を置いて接種してください。詳しくは、接種をお受けになる医療機関又はお住まいの各市町にお問い合わせください。